

市内スポット「よくばり」巡り あやせサイクルツアー



2月9日(土) 10時~15時、電動アシスト付き自転車市内を周遊する「あやせサイクルツアー」を実施します(雨天の場合は翌日に延期)。お菓子工房・工場見学、イチゴ摘み、農業体験のほか、心と体の温まる綾瀬の味覚を楽しむ内容盛りだくさん。

んの「よくばりツアー」です。小学4年生以上で支障なく走行できる方対象(中学生未満は保護者同伴)。定員20人(抽選。自転車持ち込みの場合は抽選なし)。

国綾瀬青年会議所・市商工会青年部・JAさがみ綾瀬市青壮年部(費500円(保険料含む)。申1月22日までに商工振興課☎70・5661。抽選結果は1月29日までに通知します。

コンテストの最優秀料理を 作りませんか



地場農産物を使ったどんぶり料理講習会

2月16日(土)9時30分~13時、保健医療センターで「地場農産物を使ったどんぶり料理講習会」を開催します。「地場農産物を使った簡単どんぶりコンテスト」で最優秀賞を受賞した「高座豚と野菜の梅風味丼」

を作ります。市内在住・在勤の方対象。定員15人(抽選)。保育あり(要申し込み)。国市地場農産物消費拡大推進協議会。費100円。申1月30日までに同協議会事務局(農業振興課内)☎70・5622。

子育て家庭の方へ 幼児2人同乗用(3人乗り) 電動自転車を貸し出します

子育て家庭を支援するため、幼児2人同乗用(3人乗り)電動自転車を貸し出します。

▼対象 4月1日現在で次の要件を全て満たす方①満16歳以上で市内在住②1歳以上6歳未満の子どもを2人以上養育している③自転車の適正な保管場所を確保できる④市税と認可保育園の保育料を滞納していない▼仕様と台数 幼児2人同乗基準適合車。内装3段変速電動アシスト付き。20台(抽選)▼利用期間 12カ月以内(1カ月単位)▼費

無料(点検・整備・修理費用と返却時の第2種TSMマーク貼付費用は、利用者負担)▼申 市ホームページ、子育て支援課、各子育て支援センター、綾南・大上保育園、中央公民館、各地区センター、寺尾いずみ会館、南部ふれあい会館、綾北福祉会館、各児童館にある市幼児2人同乗用自転車レンタル事業実施要綱や利用規約を読み、申請書に記入。添付書類とともに1月16日(2月8日に)T2521192(住所不要)同課へ郵送か直接(1世帯1通のみ)



▼貸出条件 3月14日(木)17日(日)開催予定の自転車安全運転講習会への参加(後日案内・いずれかの日の参加で可)▼同課☎70・5664

◆応募～返却の流れ

- ①利用申請書を同課へ提出
- ②申請者に利用決定通知書を送付
- ③自転車安全運転講習会に参加
- ④貸し出し開始
- ⑤自転車店で点検・整備後TSMマークを貼付して市に返却

お願いいたします

一時停止して...

ありがとうございます

くらしの消費生活相談

強引な健康食品販売業者に注意

申し込んだ覚えがないと断ったにもかかわらず、健康食品を強引に送りつけられるといった相談が増えています。『以前注文を受けた健康食品を発送する』と電話があり、自分にも家族にも心当たりがなかったので『注文した覚えがない』と断ったところ、『記録が残っている。商品は代金引き換えで発送する』と業者は全く聞き入れようとしません。届いたら、どうしたらよいか。

このように、断ったにもかかわらず一方的に商品が送りつけられた場合は、宅配業者に受け取りを拒否することを伝えましょう。電話で「確かに注文した」と強い口調で業者に言われ、断り切れずに承諾し、商品を受け取ってしまった場合でも、受け取った日から8日以内であればクーリング・オフが可能です。

消費生活センター☎70・3335。

きらめき市民活動

まちかど特派員レポート 高橋 元



●五感を育てる Ayase食農キッズ ●
☎ 網島☎090-1544-2202



▲食の大切さを伝えます

子どもたちは社会にとつて、かけがえのない存在です。子どもから子育て世代の大人に、農業を通して食の大切さを伝える「五感を育てるAyase食農キッズ」。設立から3年、代表の網島さん夫妻が精力的に取り組んでいる主な活動を二つ紹介します。

一つ目は食農教育です。昨年6月、畑の課外授業でつばみ保育園子育てサロンの親子18組が、ジャガイモ掘りを体験しました。お母さんと一緒に泥まみれになり、あちこちから「あった」「とった」と大きな歓声と喜びがあふれていました。また、11月には、同保育園の園庭で3歳児〜5歳児の70人が泥つきのゴボウを「ゴーし、ゴーし」と一緒に歌いながら洗ったり、切ったりして野菜の色を確かめていました。見て、聞いて、学び、感じる心を育み、子どもたちの心に、どんな思いが芽生えたでしょう。

二つ目は、被災地支援です。



▲ジャガイモ掘りの体験

東日本大震災後、食品や衣料品などの支援物資を現地に送りました。さらに、心のケアの必要性も感じ、「できることから少しずつ」と、みんなの手と手をつなぐさまざまな企画が生まれました。多くの方にメッセージ入りの手作りこいのほり210匹を届けたり、ひとときでもゆったりとした時間を過ごしてほしいと、綾瀬市内で回収したマグカップと一緒に飲み物や手作りの焼き菓子、コースターをプレゼントしたりしました。

網島さんは「今後多くの方に協力いただき、被災地への支援活動を継続していきたい」と熱く語っていました。